

# 令和3年度

## 美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略事業に関する検証

### 令和3年度 美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する検証

第2期総合戦略は、令和2年度から令和6年度までの5ヶ年計画となっており、地方創生の実現に向けて3つの基本目標と4つの具体的な政策(プロジェクトM)を定め、重要業績評価指標(KPI)を設定しています。この3つの基本目標を達成するため、合計42事業を具体的な事業として設定しております。

今回、評価検証を行うための基礎資料として、「各課実践事業」ごとに評価を行いました。評価の状況としては、全実践事業42件のうち、実践済み(評価A~D)が32件で全体の約76%で、内、確実な効果を期待できるもの(評価A・B)が22件で全体の約52%であり、第2期の2年目としては概ね順調にそれぞれの施策が推進されています。D評価の1件については、廃止を含めた施策の見直しを検討していきます。

### 1. 各基本目標ごとの状況

内 容	5年後の数値目標	R3実績
基本目標① 家族と暮らし続けたいまちづくり	出生数を50人確保	25人
基本目標② 地域みんなで支えるまちづくり	地域で新たに移住者を30人確保	39人
基本目標③ 「会える」がたくさんのまちづくり	観光入込客を年間22万人確保	105,130
<b>今後の展開</b>		
<p>引き続き、保健・教育・福祉等関係機関や地域の子育て支援団体等との情報交換や連携を行い、その中で子育て支援センターの開所に向けた、利用者(子育て世代)へのアプローチ方法についても検討しながら、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた仕組みづくりを行う。</p> <p>① </p>		
<p>引き続き、町内全24行政区での「地区別定住戦略(ちくせん)」の策定を目指す。当該地区の人口分析に基づき、地域住民で将来像を描き、話し合い、地域に根差した特色ある人口減少対策に向けた取り組みを支援する。</p> <p>② </p>		
<p>全国的に移住に対する機運が高まりを見せる中、さらなる情報発信の充実を図る。またコロナ禍の影響で観光需要は、県内の内需喚起がポイントとなることから、マイクロツーリズム(2時間圏域)事業により、新たな体験型観光ツアーの造成を図る。</p> <p>③ </p>		

### 2. 各課実践事業の評価基準

評 価	評価基準	評価施策数
A	着実に実践され、大きな効果が期待される。	10
B	概ね実践され、効果が期待される。	12
C	実践されるが、効果が出るのはまだ早い。引き続き実践する。	9
D	実践されるが、効果の見込みなし。(廃止も含め検討)	1
E	事業未実施。(R3に予定していたが、実践できなかった)	1
F	事業未実施。(R4以降に実践する事業)	9
計		42

### 3. 各課実践事業ごとの評価

項目	主管課	事業名	評価
1 子育て支援	町民生活課	1 子育て支援センター開設	C
		2 預かり保育時間延長	F
		3 保育所ごはん補完計画	A
		4 病児保育施設の設置	F
		5 ウッドスタート	B
		6 出産祝い金の支給	A
		7 出生届(写し)ステッカープレゼント	C
		8 保育使用料の軽減	A
		9 子ども医療費の無料化	A
	健康福祉課	10 子育て相談窓口の設置	F
		11 育児相談事業	C
		12 不妊治療費助成	B
	教育課	13 子ども(乳幼児含)が「育つ」居場所創設事業	B
		14 美郷探検隊事業と家庭教育推進大会の開催	C
		15 生涯学習推進事業「生涯学習人材バンク」	B
		16 給食費無償化	A
	政策推進室	17 婚活支援の充実	D
2 地域づくり	企画情報課	18 地区別戦略の策定・実施	B
		19 観光アプリの開発	C
		20 新規観光(体験)ツアー事業	C
		21 美郷町総合PR事業(企業版ふるさと納税)	A
	教育課	22 総合型地域スポーツクラブの設立	C
		23 町立図書館wi-fi計画	A
	総務課	24 美郷町救急救命業務委託	A
3 しごとづくり	企画情報課	25 ゼロ円起業の実施	F
		26 新規事業進出支援(飲食店限定)	F
	農林振興課	27 美さぼーと事業(地域おこし協力隊)	C
		28 新規就農・担い手対策事業	B
		29 山村雇用確保・森林整備事業	B
		30 山村雇用・森林整備人材育成	B
	政策推進室	31 宮崎ひなた暮らしUIターン支援事業	B
		32 産地型商社の設置	A
		33 美郷町職業紹介所事業	C
	4 移住・定住支援	建設課	34 定住促進住宅の整備(南郷地区②、北郷地区②)
35 単身住宅の整備(アパートタイプ:西郷地区①)			F
36 既存住宅の整備(門田①、川上迫①、愛宕⑦、和田①)			A
37 町による計画的な分譲地の造成			F
政策推進室		38 移住支援員の設置	F
		39 美郷アエルCafeの開催	E
		40 移住相談窓口の設置	B
		41 移住体験の実施	B
		42 空家バンク事業	B

#### 4. プロジェクトMの展開

項目	重要業績評価指標 (KPI)	目標値(年度)	R2	R3	R4	R5	R6
1 子育て支援	①子育て支援センターの開設	1施設(～R6)	0	1			
	年間利用組数	年300組(R6)	0	15			
	親を対象とした子育てイベントの参加者数	年60人(R6)	0	15			
	②預かり保育時間延長	3施設(～R6)	0	0			
	③生涯学習人材バンク事業参加者数	年100人(R6)	25	30			
	④美郷探検隊事業参加者数	年300人(R6)	100	50			
今後の展開	⑤結婚支援事業でのマッチング数	10組(～R6)	0	0			
<p>①R3年10月に開所した。コロナ感染症の状況を見ながら利用者数を増やすイベントを組み立てる。                  ②人材確保が困難であり実施は困難な状況である(保護者からの要望もとくにない)。                  ③人材の掘り起こしにより、バンク登録予定者を20名選定。今後も更に増やし生涯学習を推進。                  ④家庭教育推進大会のオンライン開催など、新たな手法により、体験や学びを止めずに実施。                  ⑤町独自の婚活廃止しているが、今後も他婚活イベント及び結婚相談所のPRに努める。</p>							
2 地域づくり	①地区別定住戦略の策定地区	24地区(～R4)	0	13			
	②地区別定住戦略の実施地区	24地区(～R5)	0	0			
	③総合型地域スポーツクラブの設立	1団体(～R6)	0	0			
	④イベント実施による外国人観光客数	年100人(R6)	0	0			
	⑤新規観光(体験)ツアー数	年10件(R6)	4	6			
	今後の展開	⑥救急体制に関する住民満足度	65%(R6)	-	0		
<p>①令和4年度末までに全24地区の策定を目指す。(R3年度末までに、13地区が策定済み)                  ②令和4年7月から13地区が計画を実施する。令和5年4月からは全24地区の実施を目指す。                  ③各学校区単位において特色のある地域スポーツ活動を支援する。                  ④新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しつつ、まずは既存事業の見直しから実施する。                  ⑤令和3年度より2名の地域おこし協力隊を任用しツアー造成を図っている。                  ⑥救急車搭乗やワクチン接種会場での救急救命業務を実施し、住民満足度の向上を図る。</p>							
3 しごとづくり	①新規起業者数	5事業者(～R6)	1	4			
	②新規農林就業者数	60人(～R6)	3	6			
	③地域おこし協力隊終了後の就労者数	5人(～R6)	2	0			
	④職業体験受入数	年10人(R6)	0	4			
	今後の展開	⑤中間支援組織(産地型商社等)の設置	1組織(R5)	1	0		
<p>①起業支援員(地域おこし協力隊)を中心に、情報発信と丁寧な対応を心がける。                  ②就業が容易となる制度設計や、農林業の魅力を発信することで、新規人員の確保を行う。                  ③隊員の任期後の定住につながるよう支援していく。                  ④町が受入窓口になるのではなく、必要に応じて各事業所が受け入れるよう、体制を整備する。                  ⑤地域内への再投資先の検討を行い、地域内でお金を循環させる仕組みを構築する。</p>							
4 移住・定住支援	①移住支援員を通じた転入者数	5世帯(～R6)	0	0			
	②子育て世代用の定住促進住宅の整備数	9棟(～R6)	2	0			
	③若者世代用の単身住宅の整備数	1棟(～R6)	0	0			
	④お試し滞在施設の利用者数	400人日(～R6)	177	235			
	今後の展開	⑤移住希望者相談件数	300件(～R6)	96	172		
<p>①各地域に移住支援員の概要を説明し、地域との協力体制を構築する。                  ②改修及び新規整備について、計画に沿って実施する。                  ③②の計画の進捗状況をみながら実施する。                  ④県外からの移住希望者の動向をチェックする。                  ⑤移住者や関係人口の増加につながるよう、個別に対応していく。</p>							